

## 令和2年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会  
うきは幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の保育理念に基づいて、「目指す子どもの姿」「保育方針」を掲げ、年間目標、指導計画を作成している。「養護と教育の一体性」を重要視し、一人ひとりの子どもの発達を踏まえたうえで、年間計画、月間計画、週案を立て、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう、また保育内容がより充実するよう努めている。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	異年齢保育を通して子ども達はより多様な体験を得る事ができている。常に子ども達の様子を観察し、関わりを持つことで、それぞれの発達に応じた保育のねらいや環境の設定に取り組んだ。また、新型コロナウイルス感染症感染予防対策をおこないつつ、様々な行事を通して集団活動を楽しむ機会を作り、更に個の成長を促すことにつなげるよう努めた。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	保育者の年齢層は幅が広く、若さ溢れるパワーやベテラン保育士の豊富な専門的知識、技能をうまくかみ合わせながら日々の保育に取り組んでいる。また、毎日のケース会議で保育を振り返り、更なる知識の習得と技術向上に生かせるようにしている。それぞれの得意分野を見出し、各々の保育力を生かし、互いを高め合うような保育士集団を目指している。
IV 保護者への対応・支援	職員全員が守秘義務を遵守し、保護者の立場を尊重しつつ、家庭と対等な関係を築いて互いに協力しながら子どもの育ちを支え成長や喜びを共有していきたいという考えのもと、互いの情報共有に努め保護者支援に努めている。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	幼老連携の取り組みとして、毎日敷地内の老人施設に行き、高齢者との交流を行い日常的に触れ合うことで相乗効果が生まれ、子ども達も思いやりやいたわりの心が芽生えてきている。しかし、昨年度から新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため一時中断し、今年度よりオンライン交流に切り替え再開している。また、例年行ってきた地域との関りとしての近隣のデイサービスや老人ホームへの慰問、園庭開放も同様の理由で休止している。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	法人全体の研修を含め、市内の年齢別研修、園外の研修などに積極的に参加し、職員同士が主体的に学び合う姿勢と環境作りに努めている。また、入職した職員を対象として保育方針説明会を行い、保育に対する考えの共有を図っている。今年度はオンライン研修期間を設け、外部の研修を受講し、法人内の保育園と交流を図りつつ意見交換会などを通して資質向上につなげた。また、リズム、リトミック、歌唱の分野別でグループ研究を行う事で専門性をより高める事ができた。